

高尾山報



令和3年1月号

新春特別開帳大護摩供嚴修

北方多聞天王像

制作者 大成 浩

退任の挨拶

大本山高尾山薬王院 中興第三十二世貫首 大山隆玄



火渡り祭で佐藤御山主を見守る大山御貫首

平成五年より二十七年の間、大過なく高尾山薬王院の住職として勤めさせて戴きましたのも、偏に皆様方の心暖かい御支援と御協力の賜物と深く感謝申し上げます。然るにここ数年体調が整わず、体力気力ともに衰えを感じ、限界と判断致し、その故をもって退任する決意を致しました。

後任住職は佐藤秀仁執事に託しましたので、老納と同様宜しくお願い申し上げます。

茲に就任以来永年に互ります、皆様方の格別なる御高配と御法助に衷心より感謝申し上げます、退任の御挨拶とさせていただきます。

令和二年十二月 吉祥日

年頭所感

就任の挨拶

大本山高尾山薬王院 中興第三十三世 山主 佐藤秀仁



實修実証
高尾老愚隆玄

明けましておめでとうございます。
御信徒各位には、良き新年をお迎えなされまし
た事と、心からお慶び申し上げます。
さて、昨年十二月七日、高尾山薬王院中興第
三十二世貫首 大山隆玄大僧正の御下命を賜り、
高尾山三十三世の法燈を継承致しました。
大山前御貫首は、三十一世山本御貫首の揺ぎ
無い愛山護法の精神を、誠に私心無く受け継がれ
寺門興隆、檀徒安全、そして修験道繁栄の為に熱
情を傾注なされ、二十七年間もの永きに互り御精
進をお続けになられました。山内の弟子達には常々、
「私達人類は、広大無辺なる大自然の営みに生かさ
れている、小さな存在である。その中で与えられた生
命の尊さをしかりと覚悟をいたうえて、実修実証
する事（実際に修行をした成果を實社会で人格を
通して証明する事）こそ、真言行者の使命である。」
とのお言葉をお示し頂きました。
そうした大山前御貫首の御教えを今後心から
決して離さぬよう、高尾山主と致しまして峯に入り
て学び、峯を出でて行方が如く御本尊飯繩大権現
様の御霊徳が、愈々広く現代社会の隅々にまで及
びます事を、切なる願いと致しまして精進してまゐ
り所存であります。
十方有縁の御信徒各位には、前貫首にお寄せ賜
りました御信助を、同様に御恵み下さいますよう御
願いを申し上げます、年頭に合わせて就任のご挨拶とさせ
て頂きます。

令和三年 元旦

迎春

前貫首	大山 隆玄
山主	佐藤 秀仁
執事長	菅谷 秀文
執事	犬山 秀康
総務	原田 明仁
法務部長	堀江 承豊
修験部長	中原 秀英
用度部長	山本 憲佳
本堂部長	尾形 功
参事	佐藤 伸二
法務課長	上村 公昭
信徒課長	深田 洋平
教務課長	桑名 善光
庶務課長	藤田健太郎
用度課長	大山 文武
高尾山	修験道
交通安全	祈禱殿
蛇滝	水行道場
琵琶滝	水道場
山内職	員一
高尾山報	編集室長
編集主任	菅井倫浩



住職任命辞令を拝命する



奉告法要のため大本堂へ向かう



奉告法要に列席の宗務総長及び御両山の諸大徳



沿道では大勢の方の出迎えを受ける



地元の方々の心温まるご声援を頂く



高尾山総代をはじめ檀信徒役員も参列された



佐藤新御山主を囲み列席者による記念撮影(写真提供:アズマフォト)

大本山高尾山薬王院 中興第三十三世
新高尾山主 佐藤秀仁僧正 入山式

十二月七日

令和二年十二月一日をもつて、高尾山中興第三十二世・貫首大山隆玄猊下が退任され、新たに第三十三世として佐藤秀仁僧正が就任し、十二月七日に高尾山上で入山式が執り行われました。

澄み渡る青空に恵まれた早朝、佐藤御山主は任職を務められており、市内狭間町の高楽寺から高尾山より出迎えに訪れた使者と共に、道中各所で神仏に法楽を上げながら、高尾山麓不動院まで練行を行いました。

不動院到着後に山上の薬王院に向けて出立、沿道で大勢の方々が見守る中、法螺の音と共に京王線高尾山口駅から甲州街道を経由して、表参道(高尾山商店街)を通り、ケーブルカーで山上へ移動後、薬王院へ向けて練行を再開されました。

四天王門において威儀を整えられた佐藤御山主は、高尾山総代や当山役員がお出迎え申し上げる中、高尾山御本尊・飯繩大権現様に就任の御奉告をされる為に大本堂へ向かわれました。

午前十二時、真言宗智山派総本山智積院・芙蓉良英宗務総長、大本山成田山新勝寺御貫首ご名代・岸田照泰寺務長、大本山川崎大師平間寺御貫首ご名代・出井宏樹執事長、別格本山高幡山金剛寺・杉田純一御貫首をはじめとして、石黒忠雄東京多摩教区長、高尾山法類寺院諸大徳や高尾山及び高楽寺総代各位、地域諸団体各位、高尾山慶賛会役員各位、山主ご親族の列席を受けて、奉告法要が行われました。

法要に際し、芙蓉宗務総長より、佐藤御山主に住職任命辞令が伝達され、その後、芙蓉宗務総長の落合龍太郎氏、高楽寺筆頭総代の小倉達也氏からのお祝いの言葉を賜り、最後に佐藤山主が参列の皆様には謝辞と就任の挨拶を述べられ、式は無事終了致しました。

法の水茎

大正大学講師 高橋 秀城

(103)

昨年の十二月七日、高尾山薬王院において十七年ぶりとなる、新しい御買首様をお迎えする入山式が執り行われました。お山に響きわたる法螺の音とともに、一足早い春が訪れました。誠にめでたいことです。

山川の

汀まされり

春風に

谷の水は

今日や解くらむ

(『和漢朗詠集』)
山川の水際も増してきて、とめどなく流れていき、暖かな春風が吹いて、谷間の氷を解かし始めたのだろうか。
早いもので、令和の御代も三年目を迎えました。年が改まった野山を散策すれば、吹き渡る風が運んできたのでしょうか、鳥揺れる木々の梢にも、鳥

たちの囁きにも、心なしか春の息吹が感じられま

季節はいよいよ冬から春へと移ってきました。春の三ヶ月間(九十日間)を「九十春光」と言うように、これからは日に日に心地よい光に包まれて行くのでしょうか。

冒頭の「山川の」の歌は中国の書「礼記」月令の「孟春の月、東風凍を解く」(春の初めの月に、東風が氷を解かし始める)を踏まえたものです。固い氷が解けるように、張り詰めていた心の緊張も解放できる世の中に向かつていくことを念じます。皆さまは年頭に当たり、どのような願い事を胸に手を合わされたのでしょうか。高尾山薬王院においては、元旦の午前零時を

合図に、佐藤秀仁御貫首大導師のもと「新年特別開帳大護摩供」が執り行われます。世界平和や事業繁栄などの諸願とともに、病魔退散・疫病消除を祈り、今年一年のあらゆる幸せを願います。

さて、先月号では、お釈迦様が悟りを開かれた「成道」について書きました。お釈迦様は、三十五歳の時に菩提樹の下で悟りを開かれましたが、その時お座りになっていた場所(金剛座)を「道場」とも言います。「道場」と聞くと、今ではお寺の本堂のような仏道修行の場を思い浮かべるかもしれませんが、もともととは悟りを開かれた「成道の場」(成仏得道の場)という意味でした。お釈迦様は、成道によって「仏」と成るための道(仏道)を私たちに示されたのです。



初詣には多くの御信徒が参拝し諸願成就を祈る

へ心の修行の道」となり、やがてお寺の本堂など「仏道修行の場」を指すようになりました。武芸を練習する場所を「道場」と言うのも、仏道修行と同じように心の修行という意味合いがあるのでしょうか。

お寺の道場(お堂)には、本尊を始めとする仏像が安置されています。いつ

も静かに見守ってくださっていますが、過去には声を発する不思議な仏様もいらっしやっただようです。
紀伊の国草壁の郡貴志の里(今の和歌山市)に、貴志寺という一つの道場がありました。
光仁天皇(七〇九)七八二の御代、一人の優婆塞(在家の男性信

不動院

高尾山物語 33



絵・橋本豊治

不動石
新客(初心の行者)は大先達から「罪業を軽ければ不動石と等分なり。罪業重ければ不動石動かず。」と申し受ける。不動石を持ち上げようとするが、持ち上げられず、自らの罪業の重さを深く知る事となる。

高尾山麓の清滝の隣には、不動院という薬王院の別院があります。

江戸時代には不動院に加え、証寂庵、蓮華院、浄土院という塔頭寺院がありました。高尾山薬王院においては、元旦の午前零時を

現在の不動院は昭和六十三年(一九八八)に新たに建立されました。それ以前の建造物は残された棟札によると、嘉永三年(一八五〇)、明治四十四年(一九一〇)に、それぞれ新築されたことがわかります。

不動院の庭にはまた、高尾山修験道行場の一つとして、十界修行のひとつである、「業碑」を行う際に修行者が持ち上げる「不動石」があります。

苦労重ねて

人生たえりや
花が咲きます
美しく

者が、その寺に住んでいました。するとある時、寺の中から「痛いよ、痛いよ」という呻き声が聞こえてきます。はじめは宿を取った旅人が病気になったのかと思いましたが、堂内を見回しても誰もいません。苦しむ呻き声は夜な夜な続きました。ある日の夜明け頃、いつも増して大地に響くような叫び声が聞こえてきます。明るくなると堂内を見ると、そこには丈六(約四・八メートル)の弥勒菩薩像の首が落ちていました。なんと千四ほどの大きな蟻が、首をかみ砕いてしまったのでした。

は、仏様の声が聞こえていました。信仰心に篤かったからこそ、蟻が仏像をかみ砕く音が、苦しみの声として響いていたのかもしれない。
村人も我が事のように、仏像を修復しています。深い傷を負った仏像を、必死に治したいという一心だったのでしょうか。
唱ふて、
三世の仏の
道はあれど
来る春もなく
去る年もなし
(正徹『草根集』)
(「唱へる」という、過去・現在・未来にわたる仏の道はあるけれど、そこにはめぐり来る春もなく、去りゆく年月もない)人間がもともと持っている仏様の心を「無相道場」と言います。仏様の道を追い求めて、ただひたすらに仏様の御名をお唱えするとき、そこに仏様と私たちを隔てる垣根はどこにも見当たりません。
(栃木北部教区普濟寺)

観音菩薩の宗教

37

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

ターラー信仰のモンゴルへの広まり (その2)

モンゴル初の活仏カホグツとなったジエブツワンダンバ一世、すなわちザナバザルは、もとチベット仏教チヨナン派に属し、同派の学匠であるターラナータの学恩に浴していた。ゲルク派のダライ・ラマ五世はチヨナン派を敬視して消滅させたにもかかわらず、ザナバザルをターラナータの転生者と認定した。前号では、この不可解な出来事を見たが、今回はそれについてさらに考察してみたい。

ザナバザルは一六五〇年に活仏と認定される以前、恩師のダライ五世によりゲルク派に改宗させられていた。チヨナン派を弾圧したダライ五世の前で、ザナバザルはチヨ

ナン派を棄て、ゲルク派に帰依したと考えられる。しかしながら、ザナバザルの心の深奥においてチヨナン派の思想やターラナータの教えが完全に捨て去られたかという点、そこには疑問も残る。そのことは、活仏に認定されたのちのザナバザルの事跡からも推察できる。ザナバザルの事跡は多岐に亘る。なかでも寺院と仏教美術は、彼の残した可視的なレガシー(遺産)である。仏教外護で名高いハルハ・モンゴルのアプタイ・サイン・ハーン(Abatai sayin gagan)の曾孫として生まれたザナバザルは、一六三九年、わずか四歳でモンゴル貴族たちに推戴

されてモンゴル仏教界のリーダーとなった。チベット仏教の頂点から活仏に認定される十一年前、彼はすでにモンゴル仏教界の指導的立場に推挙されていたことになる。曾祖父の建立した草原の大寺院エルデン・ゾー(Baidin nuu)を拠点に、少年時代のザナバザルは衆生の安寧を祈ってハルハ・モンゴル各地に寺院を建立した。

例えば、一六四七年には旧都カラコルムの南東にシャンハ寺(Shankh khaid)を、一六四八年には遊牧に最適の草原や河川を擁するハンガイ地方のシレート・オラン山頂にトゥプフン寺(Tovkhon khaid)を創建した。いずれも人民革命以降の共産党政権の仏教弾圧により大規模な破壊を被り荒廃したが、ザナバザル創建当時の面影も一部に残っている。なかでも後者は風光明媚な岩山をトレッキングして到達できる寺院で、現在

では周囲の文化財とともに「オルホン渓谷の文化的景観」としてユネスコ世界文化遺産に登録されている。筆者も滑落を恐れつつ登攀して参拝した経験がある。こうしたザナバザルの布教活動は、チベットより帰って後、より本格化していった。

一六五七年に二度目のチベット留学から戻ると、ザナバザルは何年もかけてハギーン・ハル湖の近くにサリダグ・ヒード(Sartdag khaid)という巨大寺院を建てた。この寺院はチベットのラサの寺院をモデルに建設されたもので、モンゴル仏教のセンチターとして栄えたが、ハルハ・モンゴルとオイラド・モンゴルの戦争のさなか、創建わずか二年で焼失してしまった。二〇二三年から六年かけてモンゴルの研究者が発掘調査を行い、三千を超えてモンゴルの五如来の仏像や、ザナバザルが造ったと考えられるブロンズ造の緑ターラーなどが発

ザルは一七〇六年、イヒ・フレにターラーを祀る寺院と二十一を一組とするターラー像を造ったとされる(Wallace 前掲書)。ザナバザルはスリーヤグプタの伝承に従ってこの一組を作成したが、その一組はゲルク派の信仰・見解に必須の緑ターラーと白ターラーを欠いている。ナーガールジュナとアティーシャの伝承によれば、六尊が赤、五尊が白、七尊がオレンジ・金・黄色、三尊が黒の計二十一尊である。ところが、ウランバートルのボグド・ハーン博物館に伝存するザナバザル作の二十一ターラー像は、すべて金メッキされているため、それぞれが似通った姿となっている。

現在そこには緑と白のターラー像が祀られているが、両尊は後から加えられたものとされ、像容もサイズも他の二十一尊とは異なる。前述のウオレスによれば、大きなサイズという点で五如

来像に近い。緑ターラーはエーカジャティ(Elkad)とマリーチー(Maric)を眷族に従えており、単独尊の白ターラーとともに二十一ターラーに加えると全部で二十五尊となる。エーカジャティとマリーチーはインドでも緑ターラーの脇侍として信仰された女神である。ウオレスの表現を借りればザナバザルのエーカジャティは半忿怒怒相(semi-wrathful)の相を顕す。像容は二面二臂を顕す。左手に頭蓋骨のお椀(Kapat)を持ち、右手に肉切り包丁(曲刀Kutu)を握っている。

一方、ザナバザルのマリーチーは経典の示すところから見ると異例である。マリーチーの原意は暁光や陽炎を意味する語マリーチー(maric)で、尊格としては通例、慈悲相の女神に描かれる。その意を汲んでチベット語では「光を持つ女性(Od ser can ma)」と

誤される。日本密教では摩利支天と写され、陽炎のごとく隠密に人を守るから楠木正成などの武士に尊崇された。経典的には女神であるが、ボグド・ハーン博物館のマリーチーは冠をかぶった男性菩薩の相で、左手は与願印、右手は蓮華の茎を握って説法印を示している。ジェンダーが異なる理由は不詳であり、ウオレスも今後の課題としている。

一九五一年、ザナバザルはターラナータゆかりのブツオクリン寺を訪ね、ターラー像やターラーに関連する文献を持ち帰っているが、このとき、同寺に二十一ターラー像の組があったかどうかは不明である。とはいえ、ウオレスはザナバザルがダライ・ラマの教えに従いゲルク派に改宗したにもかかわらず、彼がターラナータの化身となることに異議を唱えていないことに注目するとともに、ターラナータの

ターラー信仰に共鳴していたと推測している。ウオレスはモンゴルに伝わるザナバザルの二十一ターラー像の系統については明言しないが、ゲルク派が重んじるアティーシャ流とは異なることを示している。

ターラー信仰に共鳴していたと推測している。ウオレスはモンゴルに伝わるザナバザルの二十一ターラー像の系統については明言しないが、ゲルク派が重んじるアティーシャ流とは異なることを示している。

見された。伽藍カランの規模や仏像の数は、ザナバザルの信仰の篤さと布教の熱意を伝えるものである。

こんにちモンゴル国の首都として近代的な発展を遂げたウランバートルも、その起源は門前町であった。チベットから帰ったザナバザルは、トラー河が流れる肥沃なこの地に自らの住居と宗教施設を兼ねた寺院を建てた。当初は牧畜民の住居であるゲルク様式の寺院でザナバザルとともに各地を季節移動していたが、一七七八年には現在の地に定住した。その地はイヒ・フレイヒと名付られ、町は「大きな囲い」と名付られ、町はお寺の境内を中心として発展していった。

ターラー信仰の導人と振興もザナバザルが果たした大きな役割であった。そこにはチベット本土で隆盛したゲルク派のターラー信仰とは異なる思想が看取できる。前号で記した歴史家ダグワジャンツアンによれば、ザナバ



ザナバザル造二十一ターラー像(部分)。約40cm、ウランバートルのボグド・ハーン博物館蔵 (Tsuitem, The Eminent Mongolian Sculptor - G. Zanabazar, State Publishing House, Ulan-bator, 1982)

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙「アオキ」

八王子市 梶谷玲子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

九十六段 面倒なことは後回しにしない

面倒なことに向き合うのは大変なことです。そいつ時は物事を先延ばしにしてしまう人が少なくないでしょう。しかし、先延ばしにしても問題は解決しません。むしろ、より面倒な状態になることもあります。すぐ行動することが大切です。

高尾山 季節散歩

暦の言葉 「七十二候」 「七十二候」 「ふきのはなさく」

一月二十日〜一月二十四日頃 「款冬」とは「路」を意味し、いわゆる「フキノトウ」が伸びて、花が咲き始める時期の事です。フキノトウは、雪の間から生えてくる時もあり、力強さを感じます。初春の味覚として知られ、天ぷらやおひたし、味噌と合わせて食べられています。

初夢

今月の風物詩

新年になり始めてみる夢は「初夢」と呼ばれております。縁起が良いとされる初夢は「富士、二鷹、三茄子」です。理由には諸説ありますが、日本一の山である富士山、賢くて強い鷹、「事を成す」の語路合わせで茄子という解釈が多いようです。

折り折りの記 (137)

波多野 重雄

高尾山琵琶瀧蛇瀧冬の瀧

高尾山の琵琶瀧、蛇瀧は一年中休むことなく季節を歌う。瀧は豪快に落つ。夏の季語である。あの轟々と落つ夏の瀧は爽快であり、清涼感があるが、冬の瀧は水が枯れ見える人もいない。然し冬の瀧は未だ凍っていない瀧だ。水量も少ない、木々も枯れ果て、その落ちる響きは筒抜けに空へ抜けてしまう。垂直の壁に沿って落下する響きを受け止めるのは瀧自身の岸壁のみである。琵琶瀧であれ蛇瀧も同様、夏の豪快さは微塵も無い。勿論見物人も居ない。唯見る人の心に響くこととさえない。「冬の境おのれの壁に響きけり」の句を想ひ出す。(高尾山健康登山の会会長)

昔日游河口湖

視孝行

思ふ時には

親は無し(訪)

昔日、河口湖に遊ぶ

父親帯我游温泉

父上は幼児の我を連れ、温泉や松・桜の繁る富士山麓で遊んでくれた...

不二山麓繁松桜

河口湖畔で富士山に向い、真剣な表情で撮影に集中...

河口湖上向富岳

天上界では真上の角度から愛機(ローライフレックス)で...

天空撮影再霊峰

今も霊峰を撮影してゐるかしら...

いけばなの心 ⑪

華道教授 佐藤 宗明

新年あけましておめでとうございます。今年最初の作品は『万年青』の生花です。万年青は古くからいけばなの花材として親しまれている花材です。万年青はいつまでも青々として不変な事、秩序正しく繁殖する事から、家内安全、長寿、子孫繁栄の象徴とされる祝儀の花です。陰の季節を代表する草木として、お正月によく生けられています。

普通の生花とは違う特殊な生け方が伝わっています。元氣よくまつすぐに成長する若い葉。それを邪魔しないように少しずつ横に避け、独り立ちするまで足元をしっかりと固めてくれる親の葉。親子が喧嘩をしないようにひっそりと間を取り持つてくれるおじいさん、おばあさんの葉。万年青の実はその葉に囲まれて赤く美しく色づきます。皆様も今年一年、万年青の様に健やかな一年となりますようにお祈り致します。



花材：万年青

成道会 厳修

十二月八日(火)



十二月八日、高尾山上の有喜苑仏舍利塔において、成道会が厳修されました。お釈迦様が三十五歳の十二月八日に、菩提樹の下で悟りを開いて、佛陀(仏様)とられたことを成道といひます。この尊い日には、毎年成道会という法要が営まれております。

JR高尾駅 交通安全祈願 天狗面被い法要厳修

十二月十二日(土)



新たな年の安寧を祈る 正月限定 新春特別祈禱札

令和三年も正月期間（二月一日～一月三十一日）の限定で「令和新春特別祈禱札」を授与させていただきます。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発する時代でありました。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、薬王院におきましては種々の災いが少なくなるよう、また明るい社会を建設できますようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

「祈禱料は一律三萬円となります。」

願意（お願ひ事）は「除災開運」のみと限らせていただきます。

御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前でのお申し込みも頂けます。また、御信徒様各位の都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に郵送でのお取り扱ひもいたしておりますので、ご希望の方は手紙・FAX・メールにてご連絡ください。



お問い合わせ先

電話 042-661-1115
FAX 042-664-1199
メール shinto@takaosan.or.jp

高尾山の昆虫

ヨコヤマトラカミキリ

トラカミキリの仲間は大抵のイメージのように、黄色と黒の縞模様の種が大半ですが、中にはアカジマトラのように赤と黒という例外もあります。



今回ご紹介するヨコヤマトラカミキリは、上翅の色が上から朱色、やや青味を帯びた薄墨色、黒と三色に分かれる、とてもエレガントなトラカミキリで、朱色と薄墨色の境目には下がり眉のような八の字の白い紋が入ります。

分布は広範囲のようですが、少ない種で狙って会えるカミキリでもありません。ミズキの花には各種のカミキリが集まりますが、運がいいと本種の可憐な姿を見つけることができるでしょう。

私が初めて高尾で出会ったのは、やや放置された栗林です。

栗の枯れ枝を根気よく叩いて回ると、一センチ未満の鮮やかな虫が落ち、その姿や歩き方から瞬間ムネアカオオアリだと思いましたが、でももしかしてと見詰め直すと本種であることを確認できました。

枯れ枝には本物のムネアカオオアリもいて、恐らく擬態しているものと思われま。

同じヨコヤマが付くヨコヤマヒゲナガ共々、人気が高い素敵なカミキリです。

（撮影・文松島 孝）

おはなし散歩道

どんどこ焼き

柏市 木村 研

「コン・コン・コン」
きつねのお母さんが、
風邪をひきました。

「だいじょうぶ？」

お母さんの腕の中で
眠っていたきつねが、
心配そうにききました。

「だいじょうぶよ」

お母さんは、にこっと
笑って、

「お腹すいたろう？」

と、いいました。

「うん」

きつねのお腹が、
くーとなりました。

寒い日が続いていて、
お母さんが外にいけな
かったからです。

お母さんは、ふさふさ
のしっぽを首にまいて、

「これから食べ物をさが
しにいってね」

と、いいました。

すると、きつねは、
「だいじょうぶ。ぼくが
食べ物をさがしにいって

くるよ」

と、いって、くるっと宙返
りをしました。

「まあ」

お母さんは目を丸くし
て、ふふっと笑いました。

だって、男の子に化け
たきつねのお尻に、立
派なしっぽがついていた
からです。

「だめか」

きつねは、がっかり
しました。

「だいじょうぶ。これな
らわからないでしょう」

お母さんが、きつね
のしっぽをまるめて、ず
ぼんの中におしこんで、

「気をつけていってらっ
しやい」

と、いいました。

きつねが穴の外にで
ていくと、昨日ふった雪が
まだ、ところどころに残っ
ています。

きつねは、

「くしゅん」

と、小さくくしゅみをす
ると、ぴよんぴよん、山
をおりていきました。

ふもとにつくと、村の
広場に、たくさんの方が
集まっています。

（何んだらう？）

きつねが、前にでて
みると、大きな火が燃え
ていました。

村の人が、うちから
持ってきた、いろんなも
のを火の中にほうりこん
でいます。

「わー。あつたかい」

きつねが、目を細め
ていると、とりにいた
おじいさんが、

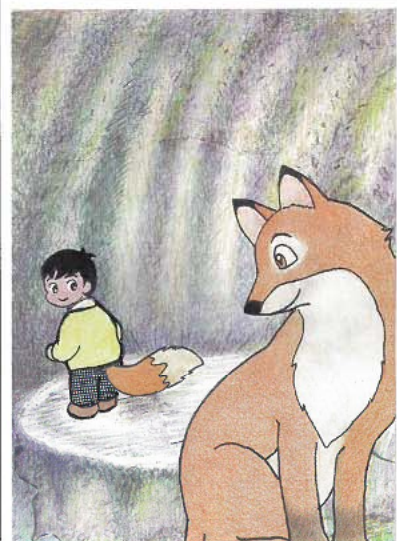
「お正月の飾りやお札を
焼いているんだ。この火
と一緒に書初めを焼くと、
習字が上達するんだぞ」

と、教えてくれました。

でも、きつねには、
よくわからないことばか
りでした。

きつねは、

（こんなにあつたかい火
であつたのなら、お母さ
んの風邪もすぐになおっ
ちやうだらうな）



おじいさんが、長い串
にさしたお餅を渡して、
「鏡開きした餅やみかん
を、このおき火で焼いて
食べると、一年中 風邪

をひかないで元気で過ご
せるんだぞ」
と、いいました。

「ほんとう？」

「ああ、ほんとうだ」
きつねは、目を丸く
して、おき火でお餅や
みかんを焼くと、だいに
そうに両手で抱えて、山
の方に帰っていきました。

その夜のことです。

「あつたかいねえ」「おい
しいねえ」という声が、
山のほうから聞こえてき
たというおことです。

それは、小正月の寒い
夜のことでした。

（おわり）

（挿し絵・小出 茂）

令和三年 正月期間御護摩修行の流れとお願い
大本山高尾山薬王院の感染防止対策について



- 【感染防止の基本】**
- 大本堂 各部署は常時換気を徹底しています
 - 人同士に一定の間隔を確保する為、定員及び間隔制限を実施します
 - 境内各所は定期巡回をし、消毒を実施致します
 - 消毒液の設置（手指の消毒にご協力をお願いします）
- 【大本堂内での対策】**
- 靴袋をご持参下さい
 - 堂内には入れるのは例年の半分の人数とさせていただきます
 - 内陣参拝は行っておりません
- 【御護摩受付所・信徒休憩所】**
- 御護摩受付所前には臨時の記入場所を設置致します
 - 信徒休憩所は使用中と致します
 - 御朱印及び健康登山押印は信徒休憩所に移動致します
- 【坊入りについて】**
- 例年、七日まで行っている新年の御挨拶（おとそ膳）を本年は中止と致します
- ※御参拝に際し、検温、マスク着用、消毒等感染予防を行い、体調に留意の上御来山下さい
 ※御参拝できない方には郵送にて、御護摩札、縁起物、御守り等を授与致します
- 御信徒の皆様にはご不便をお掛け致しますが、何卒御理解と御協力の程宜しくお願い申し上げます
 御質問等御座いましたら高尾山薬王院信徒部までご連絡をお願いします
 尚、今後の感染状況により、対策等が変更になる場合があります



高尾山薬王院信徒部 TEL 042-2661-1115

令和三年 辛丑（かのとうし）
高尾山節分会追儺式参加申込の御案内

二月二日（火）

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前九時
第二回	午前十時半
第三回	正午
第四回	午後一時半
第五回	午後二時半

尚、各修行時間の三十分前、または、定員になり次第締め切らせて頂き、次の回の修行に入ってください。ご了承ください。

高尾山恒例の節分会（豆まき式）が、二月二日、身上安全、除災開運、災厄消除、福寿円満等の祈願をこめて開催されます。

御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますようおすすめいたします。

冥加料（祈祷料）三万円

お問い合わせ 高尾山節分会係
 電話 042-2661-1115

本年の開催方針及びご参加の皆様へのお願い

本年の節分会追儺式につきましては、新型コロナウイルス感染症拡散防止対策を徹底した上で開催致します。

対策が出来ない宿泊や祝宴等の飲食、早朝五時の追儺式は中止とさせていただきます。

本堂は人数制限を行い、豆まきや永年参加者表彰式は開催致します。

新しい生活様式を取り入れながら節分会を開催いたしますので、ご理解ご協賛を賜り御参加下さいませよう、お願い申し上げます。

ご参加される方は、当日朝に検温して頂き、もし体調が優れない時や、ご不安な際には御来山をお控え頂き、ご連絡下さい。

また、境内や本堂などの建物内、ケーブルカーや送迎車両に乗り降る際には、マスクを着用の上、出来る限り会話をお控え下さいますようお願い申し上げます。

院内散歩
 薬王院の展示物
47



版画 『雪ふりしきる』 作・秋山巖

郵送御護摩申し込み受付について

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方の御信徒や、参拝できない御信徒の皆様のために、御護摩札の郵送をお受けしております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、「高尾山薬王院公式ホームページ」内の御護摩祈祷の御案内からインターネットにて、直接お申し込み頂くことが出来ますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先 042-2661-1115
 「郵送御護摩係」まで

高尾山火渡り祭
さいとうおほこま
柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内
だんもくとくべつし
のうごあんない

(三月十四日 日曜日)

當山では毎年三月第二日曜日に高尾山祈禱殿大広場にて、高尾山に春を招く恒例行事として、高尾山修験道による火渡り祭が、高尾山麓火渡り本尊ご寶前に於いて盛大に執り行われます。

火渡り祭とは、高尾山主大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。

この勝行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて使用される、御本尊・飯籠大権現様の功德を顯す御壇木の志納を二本一万円にて募っております。

ご信徒の皆様並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信託を賜りますよう、謹んで御壇木の志納をお願いを申し上げる次第でございます。

尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院境内に一年間掲示させていただきます。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒課までお問い合わせ下さい。

電話 〇四二六六一二二五

大本山 高尾山 薬王院 信徒課

祈大願成就 身体健全

高尾登



※今後、新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、火渡り祭の実施方法を、急遽変更とする場合があります。まず、御承知おき下さいますようお願い申し上げます。

火渡り祭「なで木」の功德

「なで木」とは御本尊様の慈悲大悲の御手であります。

年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身体に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、火中に供されることで、身体健全・息災延命を祈念して御本尊様よりお加持を賜り、病魔を減する御加護をいただきます。



なで木料 一座三百円

お知らせ

高尾山では、御壇木御志納の申し込みを、お電話・ファックス等で受付けております。

高尾山報の一月号に同封いたしました、郵便振替「払込取扱票」を利用してもお申し込み頂けますよう便宜を図りましたので、よろしくお申し込み申し上げます。

「払込取扱票」でお申し込みを頂く際に、願意(お願い事)が未記入の場合にご連絡がつかない場合、身体健全」とさせていただきます。

また、火渡り祭の時に名前を読み上げますので、フリガナの記入もお願い致します。

尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にもご利用いただけます。

高尾山報助成金志納者
 御芳名(順不同・敬称略)

伊勢崎市 田島 充	富里市 森 照森	八王子市 成川 美保	吉田 利江	日高市 関谷 康久	立川市 小林 博敏	日野市 野村 典子	前橋市 櫻井 秀男	八王子市 高橋 悦司	三島市 日吉 昭永	八王子市 大用 ヨン子	阿部 憲	但馬 裕介	東久留米市 水村 良二	所沢市 土方 裕一	八王子市 西ノカダイ 和子	板橋区 河西 幸子	高崎市 青木 幸子	川崎市 武部 攻	比企郡 島村 文子	羽生市 勝又 敏行	八王子市 米川 雅雄	葛飾区 野村 哲也	横濱市 高橋 キミ子	川崎市 白石 達也	狭山市 近藤 仁一	鎌倉市 粕谷 仁一郎	板橋区 中山 正輝
宮古市 岩本 千枝	八王子市 萩原 清次	塩釜市 北林 幸次郎	八王子市 小齋 洋子	本庄市 土井 俊彦	飯能市 山田 栄夫	八王子市 泉田 隆子	西東京市 岩崎 靖夫	東村山市 近藤 知加	日野市 小池 光り子	狭山市 馬場 まり子	佐野市 荒居 辰治	府中市 菊池 ヨシ	前橋市 佐藤 源昭	深谷市 菅谷 昌丈	世田谷区 善 養 寺	海老名市 松政 吉彦	相模原市 石井 清	前橋市 小野 尹通	品川区 芦澤 喜平	八王子市 吉田 芳子	加須市 吉沢 光則	千代田区 徳住 妙津	船橋市 石山 亮	八王子市 佐藤 珠美	中野区 有コヤノ 建装	川口市 岡部 明美	北区 代田 正俊
調布市 金井 英之	中央区 玉井 康雄	横濱市 妻沼 繩講	八王子市 増山 禮子	新潟市 寺門 進	児玉郡 上原 義昌	横濱市 小黒 美智子	さいたま市 佐藤 キエ	湖西市 鈴木 祥平	八王子市 山本 勝勇	府中市 井上 瑞穂	秩父郡 神林 一夫	新宿区 椎野 眞吾	太田市 高野 さき子	熊谷市 江森 静子	越谷市 登嶋 郁洋子	八王子市 町田 良樹	高崎市 吉田 美也子	船橋市 大西 幸一	飯能市 関谷 貫一	八王子市 高木 孝子	港区 手塚 昭子	邑楽郡 飯塚 清	八王子市 水越 初夫	町田市 石川 光雄	八王子市 坂口 安宏	入間市 浅見 義晴	さいたま市 日向 久美

厄年を過ぎた

御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら 一年二年を
 七十才を過ぎたなら 暑さ寒さを
 八十才を過ぎたなら 春夏秋冬を
 九十才を過ぎたなら 一日二日を
 気を付けられ 日々を大切に
 圓滿にお暮し下さい
 当山では皆様の (身体健全) 寿命長久を祈念して
福壽圓滿の御護摩を
 お申し受け致しております。



お知らせ

正月から節分までの期間中は、繁忙期につき、蛇滝及び琵琶滝での流行の指導は行いません。ただし、通常通り個人での滝行を行うことは出来ます。また、同期間中は大師堂での御回向や、不動院での御詠歌、月例写経会も実施されませんことを御了承願います。

謹賀新年



令和三年

辛丑(かのとうし)

大本山 高尾山

春の行事

初詣 迎光祭

新年特別開帳

大護摩供奉修

初甲子(福徳大黒天祭)

一月十六日(土)

節分会(厄除開運の豆まき)

二月二日(火)

初午(福徳稻荷祭)

二月三日(水)

釈尊涅槃会

二月十五日(月)

火渡り祭

三月十四日(日)

滝開き

四月一日(木)

花まつり(仏舎利塔)

四月八日(木)

春季大祭(稚児練行)

四月十八日(日)



えとほりこうし
干支張子・丑

作・中島 俊介 (札幌勤務)

—新春大護摩奉修特別時間—

	元旦 (金)	2・3日 (土)・(日)	4~8日 (月)~(金)	9~11日 16・17・24日 (土曜・日曜・祭日)	12~15日 (火)~(金)	18日以降 (土曜・平日)	31日 (日)
午	0:00						
	1:30						
	3:00						
	4:30						
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
前	7:30	7:00					
		8:00		8:00			
	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30	9:00
	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00		10:00
	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
午	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:30	0:30
	1:00	1:00	1:00	1:00	1:00		
	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	3:00	3:00	3:30	3:30	3:30	3:30	3:30
	4:30	4:00					
後							

★正月期間中は御護摩受付所や大本山において、御護摩修行参加の為、大変混雑致します。

例年に比べて、御護摩修行の回数を増やしておりますが、お昼前後の回には大勢の御信徒様が集中することが予想されますので、密集を避けるためにも、時間を調整しての御来山をお勧めいたします。

二月行事日程

一日~七日

聖天秘供(聖天堂)

二日、十四日、二十六日

弁天様御縁日

八日、十六日

御詠歌勉強会

八日

(十時不動院)

八日

仏舎利詣り(仏舎塔)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

二十七日

月例写経会

二十八日

(十三時半山麓不動院)

二十八日

奥之院開扉供養

高尾山

とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷 秀文
編集人 渋谷 秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円